

東北公益文科大学大学院 GUIDEBOOK 2027

公 益 学 研 究 科
公 益 学 専 攻 修 士 課 程
公益学研究専攻 博士後期課程



「学」と「社会」を結び付け、公益社会を実現する

社会変革期に求められる 学際的な知識、スキルを修得し、 公益社会の実現に向けた研究に取り組む



公益学研究科長
武田 真理子

2026年4月、東北公益文科大学は公立大学法人へ移行しました。開学から25年間の教育、研究、社会貢献の実績を踏まえ、山形県庄内地域の市民、自治体、産業界の大学としてさらなる発展を遂げることを使命としています。

東北公益文科大学大学院は2005年に世界で唯一の公益学の研究・教育拠点として鶴岡市に開設し、これまでに182名の公益学修士と5名の公益学博士を輩出しました。修了生は大学院で

修得した専門知識と研究成果を活かし、行政、民間企業、NPO法人、教育機関をはじめ、様々な現場で課題解決に取り組み、活躍されています。

世界及び国内情勢が大きく変化している現在、複雑で多様化する社会課題に対し、専門分野を越えて多様な人びとが対話、連携、協働によりその解決策を見出し、新たな社会を創造して行くことが求められています。その中で、生涯にわたり学び続けること、そして自身の問題意識に基づき研究に取り組むことの重要性が高まっています。本大学院は、公益社会の実現に向けた「学」と「社会」を結びつけることを目指し、学際的な研究と地域連携・社会連携に基づく実践的な学びを推進します。是非と一緒に地域、社会の未来を切り拓いて参りましょう。皆様のご入学をお待ちしております。



大学設立宣言



理念・使命



教育研究上の目的



修士課程ポリシー



博士後期課程ポリシー

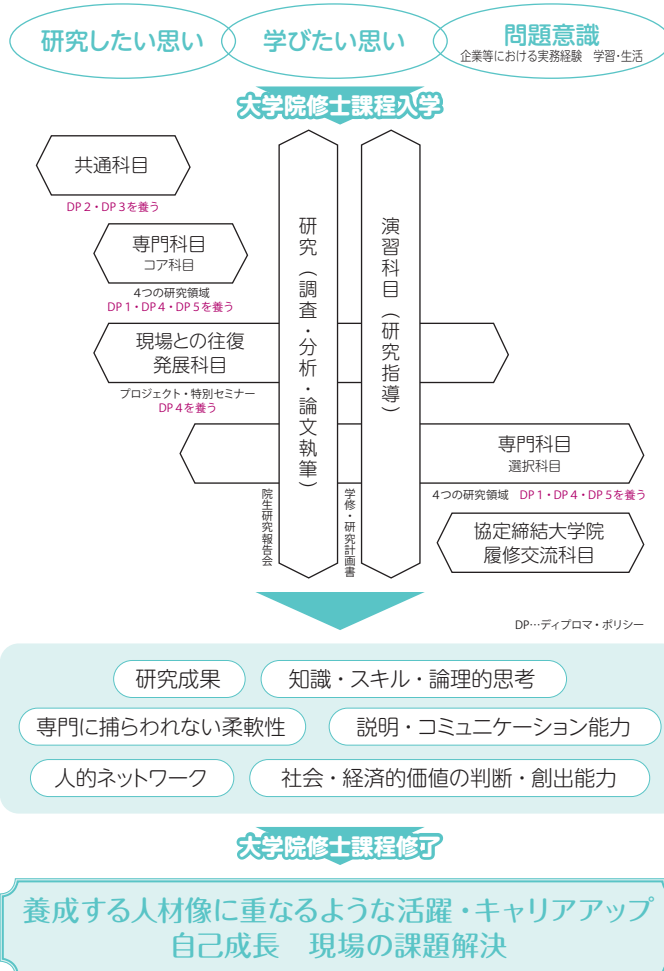
特 色

■学際教育・学際研究を実現するための研究指導体制

修士課程には、公共経営領域、国際関係領域、情報科学領域、地域共創領域の4つの研究領域があります。自らの専門とする領域を選択し、研究の柱となる学問への理解を深めるとともに、それ以外の領域の科目も履修（クロスオーバー履修）することで、学びの幅を広げます。研究の中心となる「演習」については、1年次に異なる専門の教員2名から指導を受けることが可能です。博士後期課程では、教員3名によるグループ指導を行います。

■産学官の連携による研究・プロジェクトにより 地域課題解決を目指す

修士課程には「発展科目」を設け、産学官の連携・協働に基づく共同研究や課題解決プロジェクトへの参画を通して、課題の解決に必要なとされる異なる主体との共創力、実践力、異文化や多様な価値観に対する理解力等を身に付けます。



■修士課程にスクールソーシャルワーク教育課程を設置

全ての子どもが通う学校を基盤とし、自治体や児童相談所など複数の機関と連携して児童・生徒の抱える問題を解決に導くスクールソーシャルワーカー。本学大学院では、修士課程にスクールソーシャルワークを専門的に学べる教育課程を設置しています。所定の単位を修得し修了した方には「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクールソーシャルワーク教育課程修了証」が交付されます。

■多様な学び方が可能

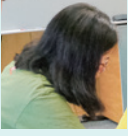
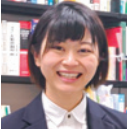
平日の夜間や土曜日を中心に授業を開講しています。「長期履修制度」や相互にやりとりをするオンライン授業も整備しており、働きながらでも研究に勤しむことができる環境があります。

入学者には大学を卒業したばかりの若者だけでなく、働きながら学ぶ方も多く、多様な職業の人と共に学びを深めます。



研究指導教員

修士課程または博士後期課程の指導ができる教員を掲載しています。(職位、氏名、専門) ホームページでは、詳しい内容をご覧いただけます。

								
学長・教授 神田 直弥 交通心理学 人間工学	公益学研究科長・教授 武田 真理子 社会政策 公益学	公益学部長・教授 三木 潤一 公共経済学 財政学	国際学部長・教授 梅津 千恵子 環境資源経済学 農業経済学	教授 青木 孝弘 社会起業論 アントレプレナーシップ	准教授 東江 日出郎 国際開発学 開発と政治	教授 阿部 公一 年金教育	准教授 植田 和憲 情報ネットワーク	教授 小野 英一 人事行政
								
准教授 加藤 良浩 現代英米文学	教授 門松 秀樹 政治史 政治学	教授 呉 衛峰 比較文学 比較文化	教授 呉 尚浩 公益学 環境社会学	准教授 小関 久恵 ソーシャルワーク 社会福祉学	教授 崔 博憲 マイノリティ論 社会学	教授 澤 遼みさ子 社会福祉 障害学	准教授 白旗 希美子 教育社会学	教授 富田 かおる 英語音声学
								
准教授 西村 まどか 素粒子物理学 機械学習	准教授 樋口 恵佳 国際法 国際海洋法	講師 平居 悠 天文学 銀河考古学	教授 広崎 心 マーケティング論 経営戦略論	教授 広瀬 雄二 情報処理	教授 古山 隆 リサイクル工学 資源処理工学	教授 星 宏人 英語学 言語学	教授 松岡 勝実 民事法学 災害復興法学	教授 松田 憲 応用言語学
								
教授 森元 拓 法思想史 法哲学	教授 山本 裕樹 物理学	准教授 横田 浩一 文化人類学	准教授 渡辺 伸子 心理学					



教員紹介



リレーエッセイ
「公益の風」

学修・研究の支援

昼夜開講制

科目は平日の夜間や土曜日を中心に開講します。修士課程については、8月・2月の集中講義とあわせて、1年次に共通科目・専門科目の単位を修得し、2年次に研究調査や論文執筆等に集中することも可能です。

研究ブース・致道ライブラリー

院生1人につき、ひとつの研究ブース(デスク、ロッカー)が用意され、24時間いつでも利用できます。文献データベースの利用が可能で、致道ライブラリーでは他大学の図書の取り寄せも可能です。(パソコンは各自用意が必要です。)

研究活動の費用補助

学会で研究発表を行う場合の旅費や参加費等の補助があります。

オンライン授業

文部科学省が定める「多様なメディアを高度に利用した授業」として、2016年度からオンライン授業を実施しています。(来学が必要な科目等もありますので、詳しくはお問い合わせください。)

優秀学生奨学金 授業料減免

研究の進捗状況、院生研究報告会の内容、履修科目の成績等、学業成績が優秀な大学院生に奨学金を給付します。経済的理由などにより授業料納付が困難と認められる学生の授業料を減免する制度もあります。(詳しくはお問い合わせください。)

地域の未来をつくる人

公益大大学院は、世界で唯一の公益学の研究・教育拠点です
さまざまな経歴の仲間が、年齢や出身を越えて集い、支え合いながら学修・研究に励んでいます



高橋 さん

2021年3月修士課程修了 自治体職員
研究テーマ：自治体のクラウドファンディング

入学のきっかけ

自治体職員として勤務し、8年目に大学院修士課程に入学しました。日々の業務を進める力は身に付いてきたと感じていた一方で、目の前の仕事に追われる中、「なぜその方法を選択するのか」「何が効果的なのか」などを一度立ち止まって考えたいと思っていました。同じ部署にいた先輩が公益大大学院の修士課程を修了されていて、社会人として学び直すことの面白さを聞いていたことも進学を考えるきっかけのひとつとなりました。職員研修のひとつとして大学院進学の制度があったため、異動調査の時に大学院への進学希望があることを伝えました。

研究テーマ・ゼミ

入学前にはふるさと納税の業務などを担当していました。当時、自治体自らが収入を確保する取り組みは新しい手法で、市民・県民のみならずからいかに共感を得るかが課題でした。こうした経験から、民間の発想や手法を行政に取り入れ地域課題の解決につなげたい、マーケティングや経営学の視点から研究したいと思い、研究テーマを「自治体によるクラウドファンディングの成立要因に関する研究」に決めました。

ゼミには、同期と半年先輩の院生あわせて5人がいました。1年目には先行研究のレビューを重ねました。先行研究論文を読み、内容を整理し、ゼミの時間に発表することを繰り返していきます。先生と他のゼミ生から問いかけやアドバイスをいただき、また自分も他の院生の発表を聞くことで、考えを広げたり深めることができました。自分の考えを相手に伝えるように整理して伝える力も身に付いたと感じています。

当時はクラウドファンディング自体が新しい分野だったため、自分の研究





テーマにぴったりと合う先行研究論文はなかなか見つかりませんでした。そのため「寄附」や「ソーシャルビジネス」などをキーワードに論文を探し、どの部分を自分の研究に応用できるかを考える必要がありました。今振り返ると、もがいた時期でしたね。でも、もがきながら研究の土台をつくっていた時期だったと思います。その積み重ねがあったからこそ、論文執筆自体は比較的スムーズに進めることができました。

先行研究レビューの後には、量的調査とインタビュー調査の2つに取り組みました。量的調査ではクラウドファンディングのウェブページから募集時期や金額などの数値を収集して回帰分析したり、プロジェクトの説明文をテキストマイニングによって分析し、効果が高い要素を探りました。

今回お話をさせていただくにあたり5年ぶりに自分の修士論文を読み返しましたが、その文量に驚きましたし、1つのテーマに対して仮説を立て、検証し、答えを見つけ出した経験を振り返ると、率直に「よく頑張ったな」と思います。先行事例がないテーマであっても、データを用いて自分なりの提案ができたことは大きな自信になりました。新たな物事に対しても、「何かできる」「前に進められる」と捉え、挑戦できるようになったと感じています。

公益大大学院らしさ

「公益学」が対象とする分野はとても広いです。自治体職員は行政学、法学、財政学などの知識を元に業務にあたることが多いですが、公益大大学院ではそれに限らず、社会学、ソーシャルビジネス、都市デザイン、マーケティングなど幅広い分野を学ぶことができました。1つの分野を深く学ぶことも大切ですが、公益学修士として、特定の専門性を研ぎ澄ますのではなく、分野を横断して考えられるようになることは、他の大学院とは異なる「公益大らしさ」だと思います。

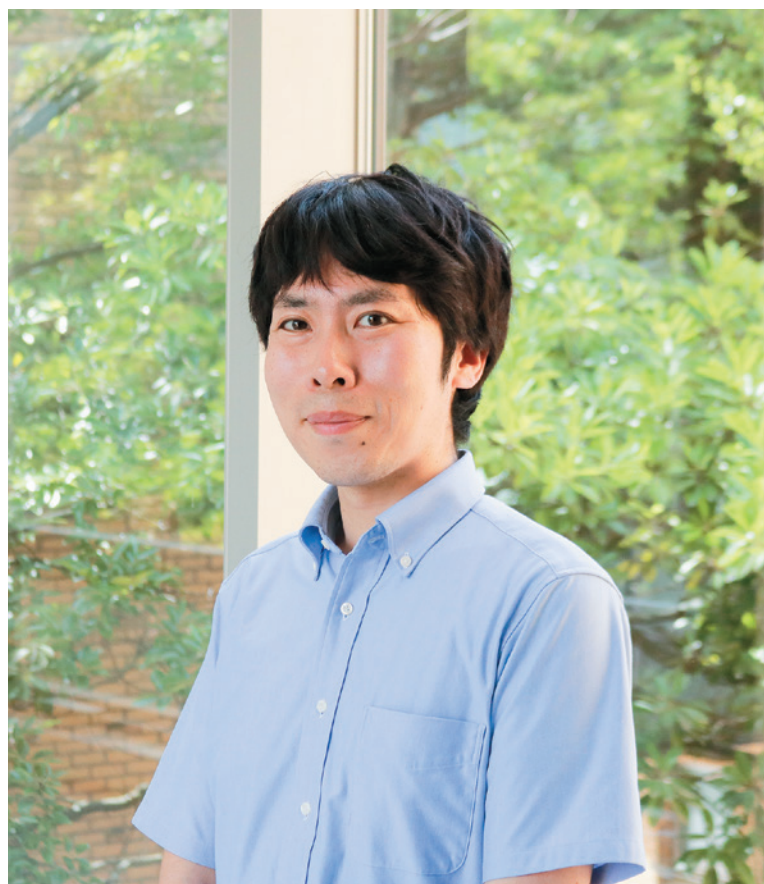
社会人になってからは似たような属性の人と話すことが多かったです。公益大大学院には学部を卒業したばかりの若い方、外国人留学生、多様な職種・業種の社会人の方がいて、経験や考えが実にさまざまでした。行政の中では当たり前だと思っていたことが、必ずしもそうではないと気づく場面も多くありました。また、自分自身が「行政」「公務員」の考え方に知らず知らずのうちに染まっていたことにも気づかされました。

公益大大学院に入学したことで、新たな発想に出逢い、新しい視点を得ることができ、とても刺激的な2年間でした。

公益大大学院に入学すれば、その良さはきっと実感できると思います。社会人として学び直したい方、実務を振り返りながら新しい視点を得たい方に、ぜひお勧めしたいです。

今後の展望

大学院での学びを通じて得た仮説検証の視点を、自治体職員として地域の課題解決や新しい取り組みの実現に活かしていきたいと考えています。社会が急速に変化する時代においては、これまでの経験や従来の方法だけでは解決が難しい課題もあります。だからこそ、理論や根拠に基づきながら新たな可能性を検証し、地域にとってより良い事業づくりに貢献していきたいです。



尾形 さん

2019年3月修士課程修了 自治体職員
研究テーマ：住民同士の互助

入学のきっかけ

自治体職員として業務にあたる中で、大学で学んだ知識だけでは対応しきれない課題に直面することがあり、特に福祉の分野において、公的制度のみの支援に限界を感じていました。勤務先の職員研修制度のひとつに大学院進学がありましたので、自ら希望して入学しました。

研究テーマ・ゼミ

公的制度や行政サービスだけでは解決が難しい課題がある一方で、地域の中には、住民同士の助け合いによって支えられている暮らしがあります。そうした実務での経験から、住民の助け合いに関心を持ち、地域の支え合いがどのように生まれ継続していくのか、また行政はどのように支えることができるのかを研究テーマにしました。



大学では卒業論文が課されない学科に在籍していたため、実は本格的な論文執筆は修士論文が初めてで不安もありました。

指導教員の先生からは、先行研究レビューの重要性を丁寧に教えていただきました。実務を経験してから研究論文を読むと、書かれている内容を単なる知識としてではなく、自分自身の経験や現場で見えてきた課題を結び付けながら理解することができるため、この点は、社会人として大学院で学ぶ大きな意義のひとつだったと思います。

研究を進めるにあたって、まずは酒田市の福祉の歴史をたどりました。そこで、酒田が地域福祉の先進地として全国的な評価を受けてきた歴史を知り、自分が働く地域を改めて見つめ直す機会にもなりました。また、酒田市社会福祉協議会の方や長野県松本市の地区福祉ひろばの取り組みに携わる担当者の方などへのヒアリング調査を行いました。現場で活動されている方々の言葉からは、資料だけでは分からない多くの気づきを得ることができ、論文執筆に大いに活かされました。

科目の履修

修士論文のテーマに関連する科目を中心に履修し、授業で学んだ理論を研究に活かすことができました。特に、「NPO・非営利組織論」「ソーシャルキャピタル論」「社会政策」で学んだ内容は、住民の助け合いや行政の役割について考える上で大きな手がかりとなりました。

また、プロジェクト科目では、「鶴岡まちなかキネマ」の隣接地や建物の利活用をテーマに、履修者同士でアイデアを出し合いました。地域の課題や資源を実際にどのように活用するかを考えた経験は、実務にもつながる実践的な学びであったと思います。

さらに、関西学院大学専門職大学院の科目を履修できたことも、公益大大学院ならではの魅力のひとつです。数日間、大阪・梅田のキャンパスで、自治体職員として豊富な経験を持つ先生から集中的に授業を受け、新しい視点や刺激を得ました。公益大の院生3人で出席したため、学びだけではなく、社会人学生同士の交流としても印象深い時間になりました。

院生生活・公益大大学院の魅力

1年目は学業に専念できたため、午前中から共同研究室で過ごし、研究に集中する時間を十分に確保できました。授業で発表がある時には資料を作成し、ゼミに向けて文献を集めるなど、日々の時間を学修・研究に充てていました。致道ライブラリーでは他大学の図書を取り寄せることもでき、論文や図書の収集に困ることはありませんでした。

夕方になると、他の社会人学生も集まってきます。授業の内容について話したり、それぞれの仕事について意見交換をしたりする時間は、院生生活の大きな魅力のひとつです。同期には県職員と市職員が複数名いたほか、民間企業に勤める方もいました。ひとつの事柄に対しても、県と市では捉え方・考え方が異なることに驚きましたし、行政とは異なる民間企業の視点にも多くの刺激を受けました。実務経験を持ち寄りながら学び合える環境があるこ

とは、社会人学生にとって心強いものです。

時には、日中に酒田キャンパスで研究指導を受けることもありました。現在はオンライン授業もあると聞いています。仕事や日常生活との両立を考える社会人学生にとって、それぞれのスタイルに応じて学べる選択肢が広がっていることも公益大大学院の魅力です。

業務に活かされた学修・研究

大学院での学びは、日々の業務への向き合い方にも大きく影響しました。特に、研究を通じて、一次資料を確認し、根拠をもとに考える姿勢が身についたことは、実務に活かされていると感じています。経験や感覚だけで判断するのではなく、事実を確認し、背景を整理したうえで業務を進める意識が高まりました。

授業での発表やレポート課題も、実務に役立つ力につながりました。限られた時間の中で情報を整理し、文章や図表にまとめ、相手に伝わる形で発表する経験を重ねたことで、資料作成能力やプレゼンテーション能力が高まったと感じています。また、学んだことをインプットするだけでなく、自分なりに整理してアウトプットする過程を通じて、新しいアイデアを生み出す力も養われました。

実務の中で新しい公益活動支援制度を立ち上げた際には、研究・修士論文執筆を通して得た住民の助け合いや行政の役割に関する視点が活かされました。大学院での様々な方との出会いや研究の経験は、自治体職員として勤務していく中で大いに活かすことができていると感じています。

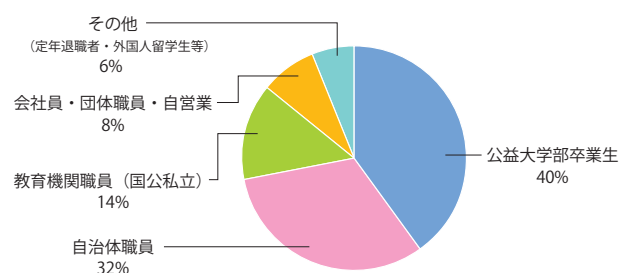
入学を考えている方へのメッセージ

日々の業務の中で感じる疑問や課題は、研究の大切な出発点になります。授業やゼミで学ぶ理論、他の院生との議論、多様な分野との出会いを通じて、それまで当たり前だと思っていたことを新しい角度から捉え直すことができます。

実務経験がある社会人だからこそ、大学院での学びはより深く、実感を伴うものになると思います。今の仕事を見つめ直したい方、新しい視点を得たい方にこそ、公益大大学院での学びを経験してほしいです。その時間は、きっとご自身の成長と、これからの仕事への自信につながるはずです。

多様な学生が共に学び・研究しています

修士課程：2019年度から2026年度春学期までの入学者



公益大大学院での学び・院生生活は、ご自身のワークキャリアやライフキャリアにどのように役立っていますか？

- 論理的な思考(ロジック、モデル等)や、統計的分析の視点を業務に導入するようになった。
- 学問的な視点から客観的に根拠を持って物事を捉える考え方が身に付き、仕事にとても役立っています。
- 研究成果が認められ、希望する部署への異動が叶った。
- 講義でご一緒した院生同士の繋がりは、修了後も続いており、業務上のちょっとした相談なども気軽にできています。

(過去の修了生アンケートより)



秋葉さん

2025年3月修士課程修了 国家公務員
研究テーマ：外国人の裁判を受ける権利

入学のきっかけ

私は公益大の学部を卒業後、そのまま修士課程に進学しました。学部時代に難民認定に関する卒業論文に取り組む中で、さらに研究を深めたいと思いが強くなったことが大学院進学のきっかけです。大学院では関心のある分野をより専門的に学ぶことができ、学部ゼミでお世話になった先生に引き続き指導していただける環境が整っていたことも、進学を後押ししてくれました。また、学部時代はコロナ禍の影響でオンライン授業が中心でした。そのため、対面で授業を受けたり、先生や院生同士で交流したりしながら学びたいという気持ちも強く、院生生活に期待を抱いていました。

院生生活

平日の午前中にアルバイトをし、夕方からは共同研究室で授業の準備や研究、就職試験の勉強に取り組んでいました。共同研究室は集中して作業ができるだけでなく、他の院生と気軽に相談や情報交換ができる場でもありました。同じ目標に向かって頑張る仲間存在は、とても心強かったです。また、週に1回、外国人の方を対象とした日本語学習支援のボランティア活動も行っていたため、その教材作成や準備にも時間を使っていました。大学院での2年間は予定表が常に埋まっているような毎日でしたが、研究や活動を通じて多くの経験を積むことができた充実した時間でした。

研究テーマ・ゼミ

私の研究テーマは、不法滞在となった外国人の裁判を受ける権利です。日本の法制度に加え、ヨーロッパ諸国の制度や判例も対象とし、各国の制度を比較・分析しながら研究を進めました。

1年次は、法令集や判例集、関連文献を読み込みながら法の解釈を整理する作業に多くの時間を費やしました。膨大な資料を読み、内容を理解し、自

分の言葉でまとめることの繰り返しで、決して簡単ではありませんでした。しかし、指導教員の先生から丁寧にアドバイスをいただきながら、自分が本当に明らかにしたい課題を少しずつ形にしていけることができました。

山形・庄内という地域にありながらも、必要な文献や資料には十分アクセスでき、研究環境に不便を感じることはありませんでした。地方にいても、世界や国際社会につながる研究に取り組めることは、この大学院の大きな魅力だと思います。

研究を通して得られたこと

専門性の高いテーマについて膨大な資料を基に研究を進めるには、2年間は決して長い時間ではありませんでした。指導教員の先生には小さな目標を立てて達成していくことの積み重ねの大切さを教えていただきました。院生時代に培った計画性や自己管理能力は、現在の仕事に大いに役立っています。

研究テーマが現在の業務に直接結びつく場面は多くありませんが、在学中に身に付けた知識があるおかげで、出入国管理及び難民認定法や外国人政策への理解がスムーズにできています。また、業務において自分の意見が公式な文書に反映されていくのですが、根拠を示しながら、分かりやすく、簡潔に書くということには、修士論文執筆で養われた力が活かされています。

今後の展望

大学院での学修・研究を通して得た知識や経験などを活かして、将来的には外国人政策に携わることを目標としています。また、日本で暮らす外国人の支援も重要だと認識しており、外国人支援コーディネーターの育成もしたいです。私が培ってきた知識を公益のために生かし、多様な人々が安心して暮らせる共生社会の実現に貢献していきたいです。



修士課程



養成する人材像

研究者

公益の視点から新たな学術的知見を開拓・先導する研究者に求められる専門知識、ディシプリン及び研究の方法を身に付け、博士後期課程へ進学する人材

知識基盤社会を多様に支える 高度で知的な素養のある人材

社会変革における課題解決及び価値創造に求められる、公益学を構成するディシプリン、データサイエンス等の基本的リテラシー、多様な主体との対話と協働の技法を身に付け、以下の4つの研究領域において活躍する人材

公共経営：少子高齢・人口減少社会において、公私を問わず多様な主体の協働による公共経営をリードできる人材

国際関係：SDGsの達成に向けて多様な主体と連携した国際関係の構築、地域の国際化をリードできる人材

情報科学：オープンデータ／オープンソースの思想、分け隔てなく情報交換するための意義と基盤技術を理解し、地域のDX推進に貢献できる人材

地域共創：「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、地域デザインとソーシャルワークの視点から多様な主体と連携した地域共創・地域づくりをリードできる人材
スクールソーシャルワーカーの専門的知識、分析力、実践力を備える人材

ディプロマ・ポリシー(修士課程)

必要な単位数を修得し、次の知識・能力を身につけた人材に学位を授与します。

DP1 課題の研究に必要な専門知識及びディシプリン

DP2 自ら課題を発見し、課題を客観的に分析し、仮説を構築・検証する能力

DP3 課題の解決に向け多様な主体と対話し協働する能力及び社会を先導する力

DP4 社会的責任・異文化・多様な価値観に対する深い理解力

DP5 既存のシステムに囚われず、新たなしくみを提言できる力

カリキュラム

科 目 区 分		研 究 領 域 お よ び 科 目 名			
共 通 科 目	必 修 科 目	公益学総論 論文作成法 共創の技法			
	選 択 科 目	情報基礎 統計学 社会調査論 哲学 倫理学 ゲーム理論			
専 門 科 目		公共経営領域	国際関係領域	情報科学領域	地域共創領域
	コ ア 科 目	公共経営研究1 (財政学)	国際関係研究1 (国際関係論)	情報科学研究1 (公益情報システム)	地域共創研究1 (公共性の社会学)
		公共経営研究2 (法学)	国際関係研究2 (国際法)	情報科学研究2 (データ解析特論)	地域共創研究2 (社会政策)
		公共経営研究3 (政治学)	国際関係研究3 (比較文化特論)	情報科学研究3 (多変量解析)	地域共創研究3 (ソーシャルワーク)
		公共経営研究4 (行政学)	国際関係研究4 (環境資源経済学)	情報科学研究4	地域共創研究4 (NPO・非営利組織論)
	選 択 科 目	公共経営研究a (公会計)	国際関係研究a (移民・難民論)	情報科学研究a (情報ネットワーク特論)	地域共創研究a (ソーシャルキャピタル論)
		公共経営研究b (民法)	国際関係研究b (多文化共生論)	情報科学研究b (人間工学)	地域共創研究b (地域活性化論)
		公共経営研究c (経済学)	国際関係研究c (グローバル・ガバナンス論)	情報科学研究c (情報数理)	地域共創研究c (合意形成・コーディネーション論)
		公共経営研究d (経営学)	国際関係研究d (開発途上国の政治)	情報科学研究d	地域共創研究d (スクールソーシャルワーク論)
		公共経営研究e (組織論)	国際関係研究e (外国文学特論(英米文学))	情報科学研究e	地域共創研究e (地域の歴史と文化)
		公共経営研究f (公共政策)			
発 展 科 目		スクールソーシャルワーク演習* スクールソーシャルワーク実習指導* スクールソーシャルワーク実習* プロジェクトa プロジェクトb プロジェクトc プロジェクトd 特別セミナーa 特別セミナーb 特別セミナーc 特別セミナーd			
自 由 科 目		教育行政* 生徒指導論* 進路指導論* 教育心理学* 教育相談の理論と方法* 精神保健学* 児童・家庭福祉論* 公的扶助論* 教育学*			
演 習 科 目		演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 演習(副)			

*スクールソーシャルワーク教育課程
受講者のみ履修可能

*スクールソーシャルワーク教育課程
受講者のみ履修可能



学修・研究のステップ

- 共通科目 (必修)
 - 論文作成法
 - 共創の技法
- 共通科目 (選択)
 - 統計学
 - 哲学 等
- 専門科目 (コア・選択)
- 発展科目
- 演習 I / 演習 (副)

- 共通科目 (必修)
 - 公益学総論
- 共通科目 (選択)
- 専門科目 (コア・選択)
- 発展科目 (SSW 実習・実習指導等)
- 演習 II
 - 調査等の実施

- 発展科目 (SSW 実習等)
- 演習 III
 - 調査等の実施
 - 修士論文の執筆

- 演習 IV
 - 修士論文の執筆

11月
報告会

1月
論文提出

2年次

- ・春学期入学・在学2年の例です。
- ・院生研究報告会において発表を行い、多角的な視点で研究内容を見つめ直します。
- ・スクールソーシャルワーク教育課程の受講者は、1年次の終わりから実習準備を始め、2年次の始めに実習に臨みます。

1年次

11月
報告会

研究指導体制

研究の中心となる「演習」については、1年次に異なる専門の教員2名から指導を受けることが可能です。

近年の修士論文のテーマ

- ・コンパクトシティにおける集約地
 - 酒田市の立地適正化に関する検討 —
- ・山形県における生活排水処理施設の持続的な経営と普及の推進に係る研究
- ・災害時の児童の避難行動について行政が果たすべき注意義務は何か
 - 大川小学校津波訴訟を手掛かりとして —
- ・地方都市における必要老後資金の実態に関する分析
- ・サイバー空間における国際法上の「帰属」と「相当の注意義務」の適用限界
- ・生きづらさを抱える高校生に対するスクールソーシャルワークを通じた支援に関する研究 — 生徒のニーズキャッチに着目して —
- ・観光資源としての城郭に関する考察
 - 城郭の運営と活用についての分析を中心として —
- ・明治後期における教育と公益 — 齋藤七郎を事例として —
- ・「荘内婦人会」創設の意義とその動向
 - 近代初期の鶴岡の女性たちに着目して —
- ・高校野球におけるあがりのメカニズムとメンタルトレーニングの効果に関する検討

免許取得・教育訓練給付制度

中学校教諭専修免許(社会)・高等学校教諭専修免許(公民)

一種免許状を有している方が必要単位を修得かつ修士課程を修了すると、申請により免許を取得することができます。

教育訓練給付制度

本課程は厚生労働省より「教育訓練給付制度」のうち、一般教育訓練の講座指定を受けています。対象の方が申請することで、100,000円の給付を受けることができます。

長期履修制度

仕事や家庭の都合で標準修業年限(2年)の間に修了が難しい場合、申請が認められると、在学を最長4年に延ばすことができます。授業料は2年分の納付のみであるため、経済的な負担も軽減します。(入学手続き時に申請が必要です。出願前にご相談ください。)

制度活用の例

修士課程1年次 研究テーマ「地方公務員の人材育成・研修」



私の大学院入学を後押ししてくれたのは、「長期履修制度」と「演習(副)」の制度です。

長期履修制度は、遠方からの通学を考えている方や、社会人として勤務を続けながら大学院で学び・研究してみたい方など、時間的制約のある方にはとても有効です。私はこの制度を活用して、計画的に4年間で修士論文の執筆を目指しています。

また、1年次の演習(ゼミ)は「演習 I」に加え、「演習(副)」も履修すると、専門の異なる先生の下で学びを深めることができます。研究テーマの分野が複数のに渡る方、多様な視点を組み合わせて研究したい方にはおすすめです。



須田さん
(自治体職員)



厚生労働省 HP
教育訓練給付制度

スクール ソーシャルワーク 教育課程 (SSW教育課程)

■ スクールソーシャルワーカー (SSWer) とは

子どもに寄り添う、「チーム学校」における 社会福祉の専門職

学校の教員・養護教諭・事務職員、スクールカウンセラー、教育委員会等と協働しながら子どもと家庭、学校を支えます。いじめや不登校、その他のさまざまな問題に対し、学校の中にとどまらず、地域の多様な人や関係機関とともに、子どもの置かれた環境への働きかけを行い、改善を目指します。子どもが元気に学び、成長できる環境を整えるため、子どもと保護者を学校の中と外の両方から支援します。

<活躍の例>

都道府県・市区町村の職員、私立学校の職員として下記のこと等に取り組んでいます。

- ・問題を抱える児童・生徒が置かれた環境への働きかけ
- ・保護者や学校教職員等に対する支援・相談・情報提供
- ・関係機関等とのネットワークの構築、連絡・調整
- ・学校教職員等への研修活動

■ SSW教育課程で取得できる資格

本教育課程修了者には、「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定 スクールソーシャルワーク教育課程修了証」が交付されます。

■ SSW教育課程の受講資格

修士課程の出願資格を満たし、かつ「社会福祉士」または「精神保健福祉士」の有資格者

(資格取得見込みの方も出願できますが、入学までに資格が取得できなかった場合は、本教育課程は原則受講できません。)

■ SSW教育課程のカリキュラム

科目名	単位数	履修区分・科目履修の免除			
		SSW 実務経験 2年以上	教職普通免許 保有	社会福祉士 有資格	精神保健福祉士 有資格
地域共創研究d(スクールソーシャルワーク論)	2	必修	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク演習	2	必修	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク実習指導	2	免除	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク実習	2	免除	必修	必修	必修
教育行政*	2	免除	免除	必修	必修
生徒指導論*	1	免除	免除	2単位以上 選択必修	2単位以上 選択必修
進路指導論*	1	免除	免除		
教育心理学*	2	免除	免除		
教育相談の理論と方法*	2	免除	免除		
精神保健学*	2	必修	必修	必修	免除
児童・家庭福祉論*	2	必修	必修	免除	必修
公的扶助論*	2	免除	免除	免除	必修
教育学*	2	履修推奨	履修推奨	履修推奨	履修推奨

※印の科目の単位数は、修士課程の修了単位には含まれません。

SSWerに求められていることや大学院で学ぶ価値などは、
ホームページに掲載のリーフレットにてご覧ください



SSW教育課程

児童福祉を研究する社会人学生（自治体職員／退職者・現職者）

白畑さん：これまで福祉の業務に従事していました。大学院入学後、関心のあるテーマに沿って複数の文献を読んで、そこに共通することを整理しながら、自分が何を明らかにしたいのかがようやく見えてきました。視野が広がったことはもちろん、実務経験に研究を重ねることで確認できたこともありました。そして、「現場」と「研究」の接点が「演習」だと考えています。行政組織としての「建前と本音」を感じながら勤務してきたのですが、研究を通して、社会的に求められる、必要とされることなのかどうかを振り返ることができています。研究を通して得たことは、今後現場に返せるように進めていきたいと考えています。



佐藤さん：現場では、調べる余裕もなく、対症療法のようになっていることがあるのが実態です。「なぜ？」と思ったり「肌感覚」でおこなってきたことを学問を通して明らかにし、対応できるようにしたいと考えています。ゼミ（演習）では、SSWerとして活躍されている方にお越しいただき、現場からの知見を共有していただいたこともありました。この課程は先進事例の視察や実習など、充実していると思います！

博士後期課程

博士後期課程では、誰かに何かを教わるというよりは、自分が明らかにしていきたいテーマに基づいて主体的に研究を進めていくという姿勢が大切です。指導教員は事細かに研究に関する指示を出したりはしません。自ら研究に取り組み、その上で指導教員の批評や助言を求め、さらに研究を進めていくイメージです。博士後期課程では、自由度が高く、それゆえに自主性が必要となる研究生生活を送ることになります。

養成する人材像

公益の視点から新たな学術的知見を開拓・先導する研究者

ディプロマ・ポリシー

必要な単位数を修得し、別に定める審査基準による博士論文審査に合格した人材に学位を授与します。

カリキュラム

研究テーマに関する高度な専門知識を身に付けるために6つの科目と、研究者としてのキャリアを支援する科目を配置しています。

科目区分	科目名		
公益学研究科目	公益学研究 a 公益学研究 b 公益学研究 c 公益学研究 d 公益学研究 e 公益学研究 f		
キャリア科目	キャリアディベロップメント		
研究指導科目	研究指導Ⅰ 研究指導Ⅳ	研究指導Ⅱ 研究指導Ⅴ	研究指導Ⅲ 研究指導Ⅵ
修了要件外科目	博士論文指導Ⅰ 博士論文指導Ⅳ	博士論文指導Ⅱ 博士論文指導Ⅴ	博士論文指導Ⅲ 博士論文指導Ⅵ

指導体制

「博士（公益学）」が取得できる唯一の大学院です。博士号取得に向けて主研究指導教員1名および副研究指導教員2名から成る研究指導グループの指導により、博士論文を執筆します。学内の「院生研究報告会」だけでなく、学会論文誌への論文投稿や学会発表等を通して研究を深めます。

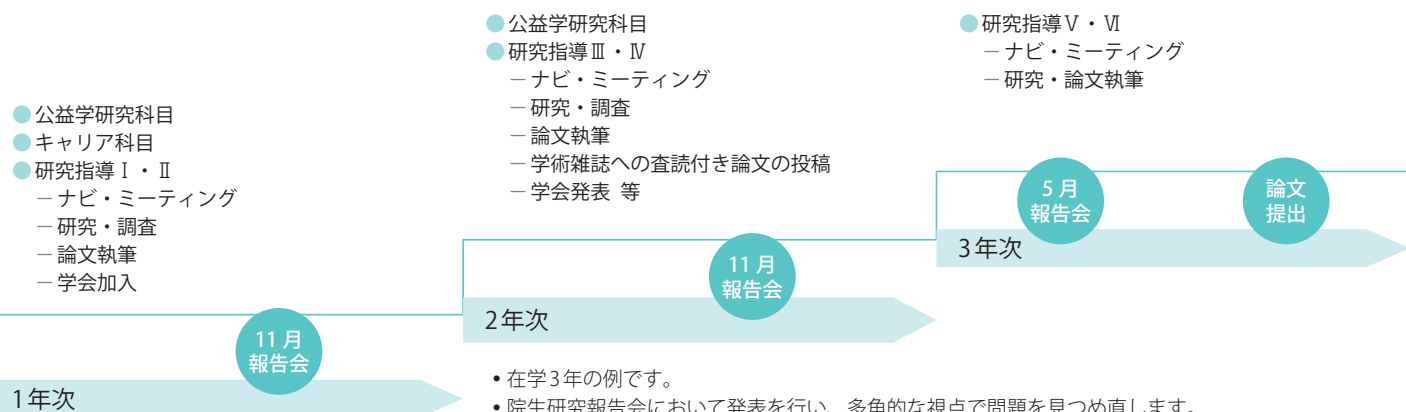
長期履修制度

仕事や家庭の都合で標準修業年限（3年）の間に修了が難しい場合、申請が認められると、在学を最長6年に延ばすことができます。授業料は3年分の納付のみであるため、経済的な負担も軽減します。（入学手続き時に申請が必要です。出願前にご相談ください。）

過去の博士論文のテーマ

- 自治体の人事システム改革に関する研究
- 日本企業における従業員処遇 ケアの倫理による考察ー
- ソーシャルビジネスの評価手法と基盤強化に関する研究
- A Post-Implementation Analysis of Digital Transformation Regime for E-Governance in Sri Lanka
- An Analysis of Business Process Reengineering in the Public Service Delivery System of the Government of Sri Lanka

学修・研究のステップ



入学を検討される方へ

本学大学院への入学を検討するにあたり、「大学院の授業・研究はどのような様子だろうか」と心配される方も少なくないと思います。ぜひ下記を利用して、大学院での学びを体験してください。

オープンキャンパス・授業見学

オープンキャンパスへの参加や授業の見学(要事前相談)が可能です。また、一部の科目については、公開講座として地域の方にも公開しています。

教員との面談

本学教員の専門分野は多様です。入学後は研究指導教員から指導を受けながら論文を執筆するため、ご自身の関心がある分野の教員との事前の面談が必要です。

修士課程 科目等履修生 としての入学

本ページ中央を
参照ください

研究生

在学期間は半年または1年です。特定の研究課題について教員の指導を受けます。詳しくはお問い合わせください。



アドミッション・ポリシー

入学者選抜

出願資格や書類提出等の詳細は、本ページ下部の問い合わせ先より「入学者選抜要項」を請求の上、ご確認ください。

学費

種 類		金 額	備 考
入 学 金	県内者	282,000 円	県内者とは、本人又は本人の一親等の尊属が本人の入学の日の1年前から引き続き山形県の区域内に住所を有する者をいい、県外者とはその他の者をいいます。
	県外者	564,000 円	
授 業 料 (年間)		535,800 円	入学後に、2期に分けて納付していただきます。

- ・本学大学院 修士課程修了者が博士後期課程に入学する場合、入学金は徴収しません。
- ・上記の他に、保険料の納付が必要です。(2年度分 約 2,500 円、3年度分 3,700 円)
- ・履修した科目で使用する教科書・参考書の購入費用や、研究にあたり必要となる書籍の費用、フィールドワークの際の交通費等は、院生の自己負担です。
- ・在学中に授業料等が改定された場合は、改定後の授業料等が適用されます。

科目等履修生

正科生以外にも大学院で開講する科目の履修を認める制度です。修士課程の科目を1科目から学ぶことができます。複数の科目で1つのプログラムを構成する「履修証明プログラム」もあり、ご自身の仕事等に必要なる理論・スキルの修得に活かすことや、正科生としての入学の前段階にご活用ください。

科目等履修生として単位を修得した後に、本学大学院修士課程に正科生として入学した場合、申請により修得した単位は正科の修了に必要な単位として認定することも可能です。

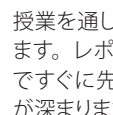


科目等履修生

履修者の声



大学院では、地方にしながら最前線・最先端の知識を得られますので、履修を通して業務に活かしていきたいと考えています。私にとっては、世代・職種が異なる人と気軽に話せる「サードプレイス」でもあります。



授業を通して得た理論やスキルが、実務と結びついています。レポート課題が中心の通信教育とは違い、その場ですぐに先生や他の学生と話ができるので、内容の理解が深まります。

問い合わせ アクセス

東北公益文科大学 大学院事務室(鶴岡キャンパス)

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1

TEL 0235-29-0555

E-mail gs@koeki-u.ac.jp

HP・URL <https://www.koeki-u.ac.jp/site/academics-gs/>



大学院 HP

- 庄内空港から
車・バス約20分
- 鶴岡駅から
車・バス約10分
- 鶴岡ICから
車で約10分
- 山形駅から
高速バス約2時間
- 仙台駅から
高速バス約3時間

